

# 地域の自活を支えるみちづくり



渋滞によって、どのくらいの時間損失があるのか？

## 渋滞損失時間

(渋滞損失時間(人・時間) = 損失時間 × 交通量 × 1台あたりの平均乗車人数)  
 渋滞の無い場合の所要時間と実際の所要時間の差に、交通量と乗車人数を乗じた値。

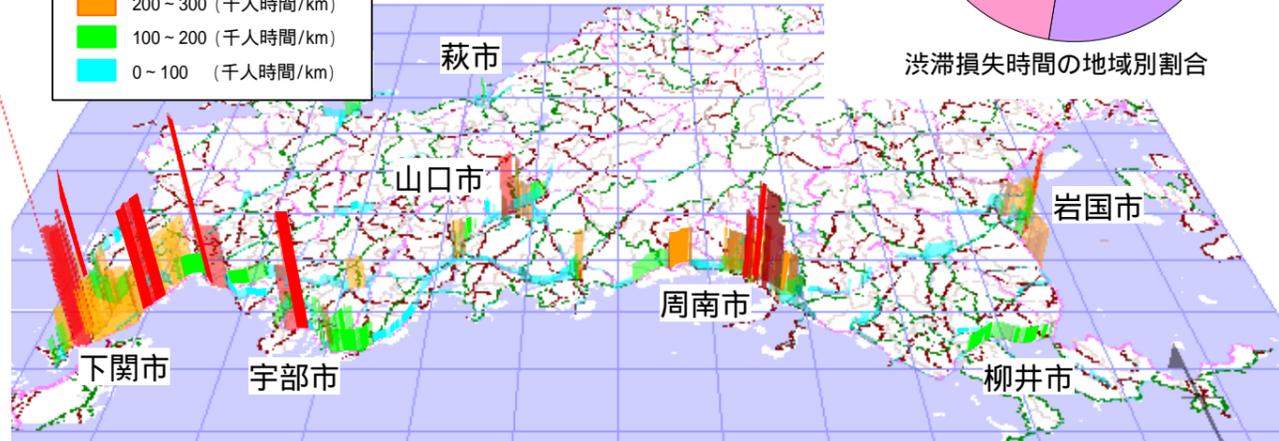
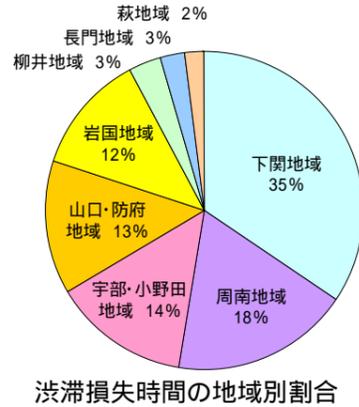


### 地域の現状と課題

#### 山口県内の渋滞損失時間

山口県内で発生する渋滞による損失を時間で表すと、年間4,321万人時間になります。これは、山口県民一人あたり約29時間/年を渋滞のためにロスしていることになります。

また、山口県内の渋滞は、山陽側の都市部で集中的に発生しており、特に下関地域が全体の3割以上を占めています。



H11交通センサス、H16プローブデータをもとに作成  
 一般県道以上を対象

山口県内の渋滞損失時間

### 課題への対応

#### 平成17年度の主な事業と整備効果

平成17年度は、国道191号下関北バイパスや県道藤生停車場錦帯橋線の供用等により、約27万人時間/年の渋滞損失時間の削減を目指しています。

事業名	平成17年度の供用区間	渋滞損失時間の削減効果	関連する主要渋滞ポイント
国道191号下関北バイパス	部分供用 1.1km (暫定2車線)	18.7 万人時間/年	金比羅、幡生口
県道武久椋野線	部分供用 0.5km		
県道藤生停車場錦帯橋線 (平田バイパス)	全線供用 3.7km	7.8 万人時間/年	梅ヶ丘団地入口、海土路、栄橋南詰、装束門、岩国市新港町、昭和橋、立石、錦見
県道岩国大竹線 (関ヶ原バイパス)	全線供用 3.0km		

### 課題への対応

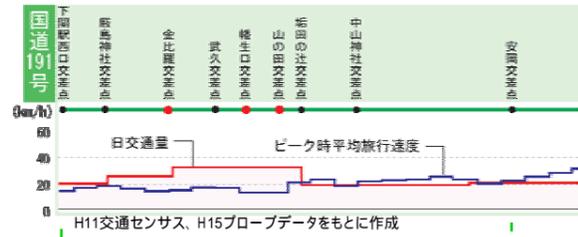
#### 下関地域における渋滞対策

下関地域は、山口県内で最も渋滞損失時間が大きく、特に交通の集中している国道2号や国道191号では、朝夕のラッシュ時を中心とした慢性的な渋滞が発生しています。

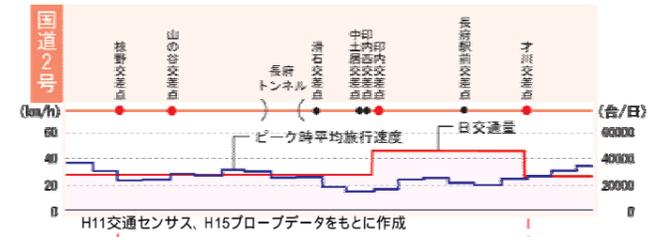
これらの渋滞を緩和するために、国道191号下関北バイパスや国道2号下関拡幅、県道武久椋野線などの整備を進めています。

#### [交通量と旅行速度]

##### 国道191号の交通量とピーク時旅行速度



##### 国道2号の交通量とピーク時旅行速度



#### 【主要渋滞ポイントの状況】

##### 国道191号 山の田交差点



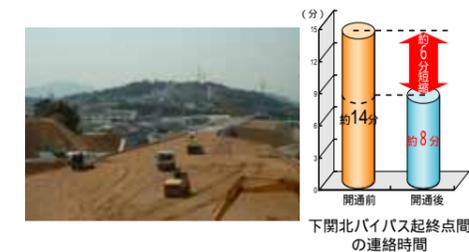
##### 国道2号 印内交差点



#### 【代表整備箇所】

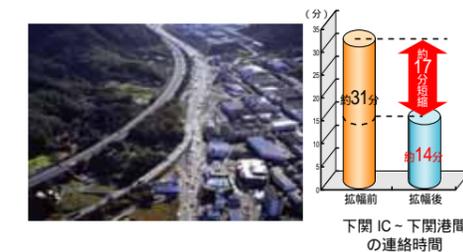
##### 国道191号 下関北バイパス

下関市街の南北の交通を支える国道191号は、特に朝夕のピーク時の渋滞が課題となっています。その渋滞緩和を目的として、下関北バイパスの整備を推進しており、平成17年度は下関市汐入町から県道武久椋野線との交差点までの1.1km区間を供用する予定です。



##### 国道2号 下関拡幅

平成16年度までに椋野交差点の立体化が完了しており、平成17年度は山の谷交差点の立体化工事に着手する予定です。



##### 県道 武久椋野線

下関市街地の渋滞緩和、及び物流拠点として整備中の下関沖合人工島と中国縦貫自動車道下関ICの連絡を強化する道路として整備を推進しており、平成17年度末に国道191号下関北バイパスの部分供用と合わせ、0.5km区間を部分供用する予定です。



地域の自活を支えるみちづくり

地域の自活を支えるみちづくり